

健康と医療についてゲストに語っていただくコーナーです

健康と医療 いきいきゼミナール

テーマ **带状疱疹**
ゲスト **佐川昭リウマチクリニック 古崎章 副院長**



带状疱疹(たいじょうほうしん)について教えてください

带状疱疹は、子どもの頃にかかった水ぼうそうウイルス(水痘・带状疱疹ウイルス)が背骨に近い神経に長期間潜んでいて、加齢や疲労、ストレスなどにより免疫機能が低下したときに、ウイルスが再び目覚めて発症し、潜んでいた神経の領域に沿って痛みを伴う水疱が出現する病気です。水疱(すいほ

う)の出現する3~4日前から痛みが出る場合もあります。痛みはだんだんと強くなり、中には眠れないほど痛みが激しくなることもあります。一般的に50歳あたりから発症率が増加し、80歳までに3人に1人が発症するといわれています。

関節リウマチなどのリウマチ性疾患や白血病、リンパ腫、臓器移植後の患者さんなどは、病気

や治療薬の影響で免疫機能が低下していることが多く、例えば関節リウマチの患者さんでは一般の方の約3倍、また治療薬としてJAK(ヤヌスキナーゼ)阻害薬を使用しているリウマチ患者さんでは、使っていない患者さんの約3倍(一般の方の約9倍)多く带状疱疹を発症するといわれています。

带状疱疹は一度発症すると抗体がつくられるので、その後はか

かりにくくなりますが、時間経過とともに抗体は減っていくため、再び発症するケースもあります。

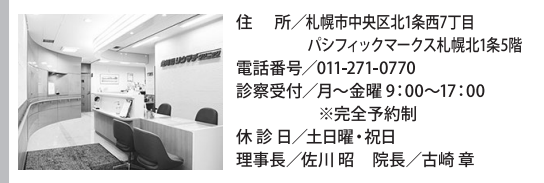
治療と予防について教えてください

抗ウイルス薬を1週間服用して治療します。皮膚の症状(水疱)は約1~2週間で良くなりますが、治療開始が遅れたり、症状を起す範囲が広がるなど重症化したりすると神経痛が残ってしまい(带状疱疹後神経痛)、日常生活に支障を来すことがあります。このため、带状疱疹に気付いたら、速にかかりつけ医や皮膚科を受診することが重要です。

予防には主に50歳以上を対象としたワクチンがあり2016年に生ワクチンが、18年には不活化ワクチンが承認されています。関節リウマチなどの治療薬を使っている場合は生ワクチンを接種できないため、不活化ワクチンを接種します。不活化ワクチンは、筋肉注射で1回目の接種から2カ月をあけて2回目の接種の必要があります。4年目までは約90%、10年目までは約70%の予防効果が続くとされ、費用は1回2万円前後です。带状疱疹のリスクが高い方は、ワクチンで防げる病気なので積極的に接種することをお勧めします。

病院訪問 佐川昭リウマチクリニック

リウマチ・膠原病の早期発見と早期治療を目指し、先進的な医療にも積極的に取り組むリウマチ専門クリニック。丁寧な検査と的確な診断のもと親身な説明と納得のいく治療で常に患者本位の体制を目指します。



住所 / 札幌市中央区北1条西7丁目
パシフィックマークス札幌北1条5階
電話番号 / 011-271-0770
診察受付 / 月~金曜 9:00~17:00
※完全予約制
休診日 / 土日曜・祝日
理事長 / 佐川昭 院長 / 古崎章

企画制作 / 北海道新聞社営業局 広告